

## ウンシュウミカン中の $\beta$ -クリプトキサンチン測定法の室間共同試験による妥当性確認

熊谷雅孝<sup>1</sup>, 門倉雅史<sup>1</sup>, 水田賢司<sup>1</sup>, 田中真澄<sup>1</sup>, 生駒吉識<sup>2</sup>, 鈴木忠直<sup>1,3</sup>, 安井明美<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 独立行政法人農林水産消費安全技術センター

<sup>2</sup> 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所

(現：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門)

<sup>3</sup> 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

(現：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門)

ウンシュウミカン (*Citrus unshiu* Marc.) 中の $\beta$ -クリプトキサンチンの測定法を、室間共同試験により評価した。本測定法における $\beta$ -クリプトキサンチンの検出限界 (S/N=3) 及び定量限界 (S/N=10) は、それぞれ 0.4 mg/kg 及び 1.2 mg/kg であった。共同試験には 11 試験室が参加し、5 材料を非明示 2 反復で測定した。その結果、 $\beta$ -クリプトキサンチン含有量が 4.7 mg/kg ~ 23 mg/kg の範囲で、併行相対標準偏差 ( $RSD_r$ ) 及び室間再現相対標準偏差 ( $RSD_R$ ) はそれぞれ 2.0 % ~ 4.2 % 及び 9.0 % ~ 14 % であった。HorRat は 0.75 ~ 1.1 となり、本測定法の妥当性を確認した。拡張不確かさ  $U$  ( $k=2$ ) は、21 % であった。